

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月15日

事業所名 oliveやまうち

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	62.5%	25%	12.5%	・近隣公園を活用	・運動スペース狭い。
	2 職員の配置数は適切である	75%	25%			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	25%	50%		・賃貸物件の為、ハード面の改修が困難。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	62.5%	25%	12.5%	・管理者主導による、改善を定期的実施。	・職員主導の参画を図る。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		・管理者主導による、改善を定期的実施。	・職員としての業務改善点の抽出を図る。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	87.5%	12.5%			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	12.5%	37.5%		・第三者による評価を取り入れを図る。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	87.5%		12.5%	・外部研修を活用。	・外部研修へ未参加職員【ゼロ】を図る。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	87.5%		12.5%		・職員への分析状況共有化を図る。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%			・標準ツールの情報共有化を図る。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	87.5%		12.5%		・未参加職員【ゼロ】を図る。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	87.5%	12.5%		屋内外の新しい活動を取り入れる。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			・活動の流れや、見通しを立て支援。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	87.5%	12.5%		・児童全体の状況で、活動変更を行う。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	37.5%	37.5%	25%		・役割分担を明確化するツール活用を図る。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	25%	25%		・振り返りスケジュール化を図る。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	75%	25%			・検証と改善の徹底化を図る。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	75%	25%			・サービス計画の見直し立案がやり易い環境整備を図る。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	50%	50%			・全職員でのガイドライン確認を図る。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%		・管理者 or 児発管による参加。	・他職員への参加促しを図る。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	87.5%	12.5%		・管理者による、一元確認管理。	・全職員による対応化を図る。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月15日

事業所名 oliveやまうち

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	37.5%	37.5%	25%		・連絡体制フローを作成を図る。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	87.5%	12.5%		・管理者 or 児発菅による実施。	・他の職員参画を図る。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	62.5%	37.5%		・管理者による、一元対応。	・職員参画を図る。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	87.5%		12.5%		・未受講職員【ゼロ】を図る。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12.5%	37.5%	50%		・コロナ過回復時に、交流企画を図る。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	12.5%	37.5%	・管理者のみ参加。	・職員参画を図る。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	87.5%		12.5%		・全職員による参画を図る。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	62.5%	37.5%		・モニタリング他、個別面談時を活用。	
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	87.5%	12.5%		・管理者による、一元対応。	・契約やモニタリングへの職員参画を図る。
保護者への説明責任等	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	87.5%	12.5%		・個別面談を実施。	・全職員による参画を図る。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12.5%	50%	37.5%		・コロナ過回復時に、交流企画を図る。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	75%	25%			・全職員への対応フローの共有化。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%			・会報等の発行を検討する。
	35 個人情報に十分注意している	100%				
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	87.5%	12.5%		・絵カード等を活用。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	62.5%	37.5%			・コロナ過回復後に、交流企画を図る。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	75%	25%			・ホームページ等を活用して、いつでも確認できる環境整備を図る。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	87.5%	12.5%			・避難訓練以外の導入を図る。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	87.5%		12.5%		・全職員同時の研修機会を図る。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	62.5%	25%	12.5%	・モニタリング時に、再確認。	・全職員での共通化を図る。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	87.5%	12.5%		・保護者からの情報提供を元に対応。	・医師の指示書対応フローを明確化する。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%			・情報共有ツールで、事例集の共有化を図る